

〈近世〉

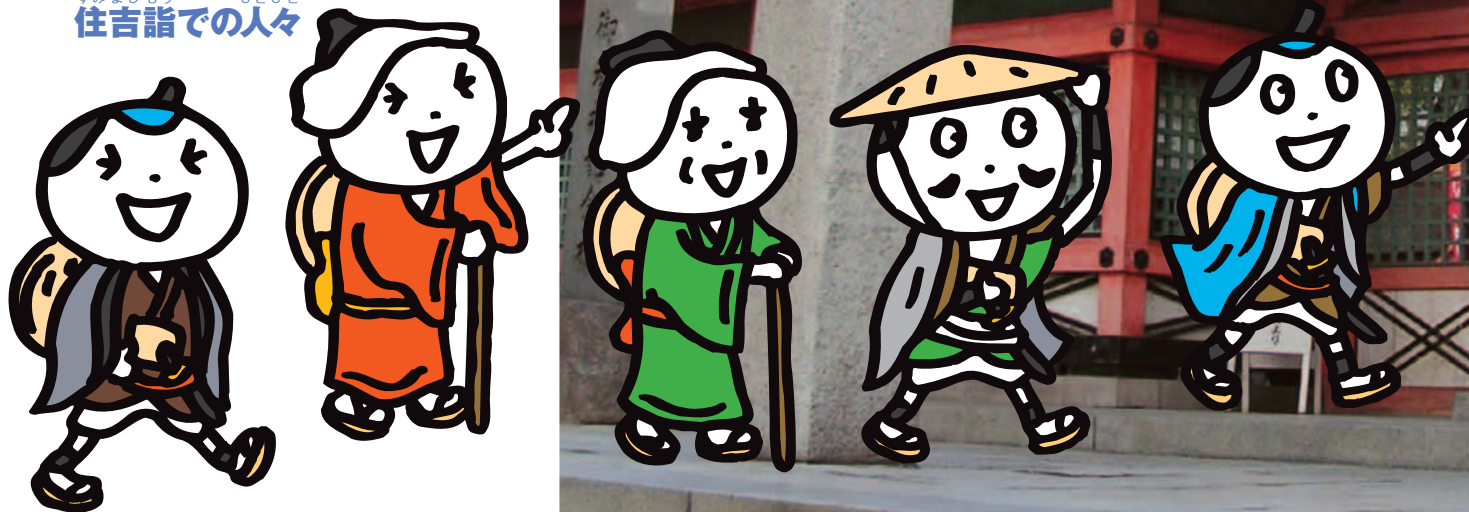
そして江戸時代、 住吉は栄える

太平の江戸時代になると、住吉大社を中心とした観光地として人々が住吉を訪れ、また、南北朝や戦国時代の戦争絵巻の舞台として語られることで、一層、旅人の足を留める場所になります。観光名所としての住吉大社周辺と熊野街道、紀州街道沿いには人々の往来が絶えませんでした。

江戸時代の観光ガイドである『撰津名所図会』には当時の住吉の観光地が描かれています。

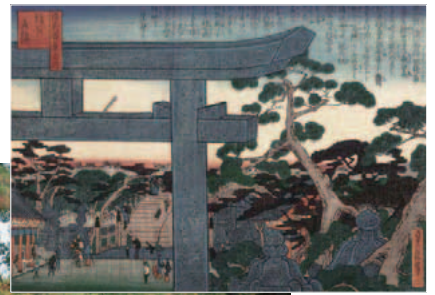
かくどりいよばれし
る住吉鳥居、四角柱の柱は大変珍しい

すみよし
住吉区ゆかりのキャラクター 11
すみよしもうひとびと
住吉詣での人々





すみ そりばし
 「住よし反橋」
 は せ が わ さ だ の ぶ が お お き か し ょ う て ん し ゅ く ぞ う
 (長谷川貞信画 / 大阪城天守閣蔵)



すみよしたいしゃ たいこばし ばし
 住吉大社の太鼓橋。橋のかかる池はかつては海につながっていた



ぶん か ねん つく ごほんてん だいいちほんぐう だいにほんぐう
 文化7 (1810) 年に造られた御本殿。第一本宮から第四本宮まである

すみよしたいしゃ けいだいず
 住吉大社の境内図

